

# サンルダム建設と水没するサンル地区

東京下川会 事務局長 宮澤 國雄



北海道下川町サンル地区への入植は、明治39年秋、岐阜県人の前田助兵衛氏を団体長とする林杉太郎氏、梅坪杉太郎氏等が現在のサンル四線附近、十三線附近に移住してから始まります。

その後続々と入植、当時は七線附近までを主として開墾。後大正初年に至りそれより奥地が発展。特に昭和初期に至り急激な発展を見、終戦後、一時は総戸数103戸、総人口600人を数えるに至り、サン

ル鉦山の開発、営林署あるいは個人経営の造材・木工場、澱粉工場、サンル小学校、中学校の開設等により大いなる発展を極めました。



サンルダム完成予想図

薯、麦類、大豆、菜豆等でした。

昭和47年、サンル地区も過疎化の流れは止まることなく人口が減少し、サンル小学校、中学校が統合による閉校となっていました。

サンルダムの建設は、サンル川が一級河川天塩川の支流に当たり、この遡北の大河を洪水被害から守り、流域を潤すため、国内最北に位置する多目的ダムとして、昭和63年に計画されました。

(注) 天塩川沿川では、昭和48年8月の台風10号、昭和50年8月の台風6号、昭和56年8月の台風12号により大きな洪水被害を受けました。

完成予定は平成29年ですが、平成27年度ではダムの堤体打設工事等に当初予算で63.6億円の国費が投入されています。

サンル地区は水没しても、胸の奥で輝くサンルの懐かしい思い出は、これからもサンルを愛する人々の心と共に生き続けることと思えます。

(参考文献)「ふるさと珊瑚(サンル)風物語」(サンルダムふるさと誌) など

## 我ふるさと会

### 推進に当たって

東京美深会 会長

高橋 忠二



北海道ふるさと会、連合会、関係の皆様、お変わりなくご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、この度ふるさと会連合会広報部会から東京美深会を通じ、発刊三十三号の会報へ寄稿要請があり、お受け致しました。私事で恐縮ですが、昨年十月の年次総会で会長に就任し、連合会の年次総会、新年交礼会などの諸行事に出席し、旧知の皆様方とお会いできた事、大変嬉しく、光栄に存じています。

しかし会長としては所詮新参者であり、ご指導ご支援を賜ります様宜しくお願い申し上げます。今後の社会では少子高齢化、国際化、情報化などの進展により、今以上に変化

が激しくなる事が予想されます。こうした中で過日、日本人の人口が今年一月一日時点で二十七万人余り減少したと報道されました。私が住む市原市が人口二十八万人余りですから、今後日本中で毎年市原市の人口位が減少すると思われま

## 新体制で

北海道福島会 会長

鎌田 博喜



平成27年4月12日、市ヶ谷アルカディアにて福島会の総会が開催されました。今回は役員改選期に当り、会長以下数名の改選がありました。福島会が発足して16年目を迎え私も3代目の会長として福島会のため、福島町のために微力ながら頑張りたいと思っております。会の活動としては毎年4月に総会が有りますが、出席者の高齢化にともない人数が中々増えていかないのが現状です。

これは福島会だけの問題ではなく、他の会でも同じ様な悩みではないかと思っております。案内状や懇親会の中身を若い人達も楽しんで出席出来る様な、内容にしていかなければと思っております。又、10月には会として一番大きな事業、ふるさと連合会が参加していただきます木公園での産直フェアが有り、福島会も参加しております。これには幹事や福島町からの協力を得て、常に売り上げトップの座を守る様一致団結して頑張っております。

## 池田税理士事務所

税理士 池田 俊一

うらかわ観光大使  
(北海道ふるさと会連合会 監事)

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7丁目16番14号ミクラ西新宿ビル五階

TEL 03-3361-5998 FAX 03-3361-6945

特に女性のパワーが凄く売り上げ増に大変貢献し、男性陣を圧倒しています。これから新体制で楽しく活気ある福島会にしていきたいと思っております。

て居りますが、会場に苦慮しています。今までは某区民会館を利用していましたが、利用規約の変更で厳しくなりました。此の事については北海道東京事務所の新築共用開始に伴い、事務所の責任者とお話しをすることがあり、会議室の利用願いを申し出ましたが、地所の狭隘、建築費予算の限度等で多目的会議室が少ないとお話でした。今後ふるさと会連合会で利用促進について、北海道事務所と交渉を重ね、利用可能の実現に向け宜しくお願い申し上げます。北海道ふるさと会連合会の益々の御発展を御祈念申し上げます。